

# 桃山南たより

平成30年度 後期学校評価版  
京都市立桃山南小学校  
校長 芝原理

今年度もいよいよ残りわずかとなりましたが、皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。平素は本校教育活動にご理解、ご協力をください、厚くお礼申し上げます。  
さて、2月に行いました学校評価アンケートの結果についてご報告いたします。  
お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。



## 【確かな学力】

### 子どもは人の話を最後まで しっかり聞いている

	51.1%	38.3%	7.5%
低学年	51.1%	38.3%	7.5%
高学年	36.1%	47.5%	14.6%
保護者	12.6%	48.2%	35.6%
保護者(働く)	14.4%	70.0%	14.8%
教職員	0.0%	60.0%	40.0%

### 子どもは家庭学習をしっかりしている

	72.3%	16.0%	1.6%
低学年	72.3%	16.0%	1.6%
高学年	45.7%	33.8%	17.2%
保護者	17.6%	49.1%	28.3%
保護者(働く)	13.9%	59.4%	23.5%
教職員	10.7%	60.7%	28.6%

### 子どもは学習や学校行事などに 自分から進んで取り組んでいる

	40.7%	43.6%	12.9%
低学年	40.7%	43.6%	12.9%
高学年	26.9%	56.4%	14.7%
保護者	26.1%	56.8%	15.4%
保護者(働く)	14.5%	70.7%	14.1%
教職員	7.1%	89.3%	3.6%

### 子どもはいろいろなことに目標をもって あきらめずに取り組んでいる

	61.5%	29.8%	6.8%
低学年	61.5%	29.8%	6.8%
高学年	29.7%	50.0%	17.1%
保護者	18.3%	54.5%	24.7%
保護者(働く)	14.0%	68.8%	16.4%
教職員	10.7%	71.4%	17.9%

【確かな学力】の調査項目では、できていると回答する割合は低学年の方が高いです。高学年は、自己に対して厳しい評価をしていると考えられますが、それは、努力できる伸びしろを残している証しであるので、来年度も積極的に評価して行動の変容を促したいと思います。高学年の「前向きに学習」に関しては6.6Pの大幅な上昇が見られました。教職員は、「話を聞く」「家庭での学習」でやや低下しましたが、「前向きに学習・あきらめずに取り組む」で大きく上昇しました。これは、教職員の働きかけが、「あきらめずに取り組む」の項目において、前回は低下傾向にあったので、結果を真摯に受け止め、「前向きに学習・あきらめずに取り組む」に対する教育活動を充実・強化したことがこの結果につながっています。「家庭での学習」のできている割合が、低いので、来年度も「わかる」から「できる」への過程を大切に、学ぶ楽しさを知り、自ら学ぼうとする子どもを育てる中で、家庭学習の充実に取り組み学力向上を図っていきたいと考えています。

## 【健やかな体】

### 子どもはいつも元気で、明るい気持ちで 過ごしている

	73.5%	20.5%	6.6%
低学年	73.5%	20.5%	6.6%
高学年	63.0%	28.6%	5.2%
保護者	37.2%	55.6%	6.9%
保護者(働く)	26.9%	63.3%	9.4%
教職員	32.1%	57.1%	10.7%

■よくできている ■大体できている  
■あまりできていない ■できない



### 子どもはいろいろなスポーツや外遊びなど で進んで体を動かしている

	74.4%	17.7%	6.1%
低学年	74.4%	17.7%	6.1%
高学年	51.6%	28.0%	15.9%
保護者	35.3%	39.6%	18.7%
保護者(働く)	23.6%	52.8%	19.2%
教職員	25.0%	60.7%	14.3%

【健やかな体】では、前回に続き、心の健康も問っています。「子どもはいつも元気で、明るい気持ちで過ごしている」の項目で、低学年、高学年ともに、さらにポイントを上げ95%以上の割合でできていると答えていました。「生活習慣」は、低学年は、前回結果と比べ7.4Pの上昇を見ましたが、規則正しい生活をしているとする児童が、高学年では、依然8割程度にとどまり、大きな課題です。遅刻してくる児童への取組も急務であると考えています。引き続き、将来社会の担い手をしてその役割を十分発揮できるよう「早寝、早起き、朝ご飯」の基本的生活習慣の確立に向けてご家庭での支援もよろしくお願いいたします。

「進んで体を動かす」では、できていると答えた低学年は92%(1.5↑)、高学年は80%(4.8↑)でした。前回の学校評価結果を生かし、ジャンプアップの取組や持久走大会・なわとび大会などを開催して、休み時間に走ったりなわとびの練習をしたりして、全校的に運動をする機会が増えたことにより改善されました。

